

# 沖縄県ヤングケアラー実態調査

— 報告書 —

令和5年3月

沖縄県



## 目次

第1部 本調査の概要	
第1章 本調査の概要	1
(1) 本調査の概要設計	1
(2) 検討委員会の設置	1
第2部 児童生徒調査	
第1章 児童生徒調査の概要	
1. 調査概要	3
(1) 調査設計	3
(2) 回収状況	3
(3) 調査結果の見方	4
第2章 小学生調査結果	
1. 単純集計・クロス集計結果	7
(1) 基本属性	7
(2) 普段の生活について	9
(3) 家庭・家族のことについて	12
(4) ヤングケアラーについて	24
2. 自由回答	27
(1) テキストマイニングによる共起ネットワーク	27
(2) カテゴリー分類分析	28
第3章 中学生調査結果	
1. 単純集計・クロス集計結果	31
(1) 基本属性	31
(2) 普段の生活について	33
(3) 家庭や家族のことについて	37
(4) ヤングケアラーについて	53
2. 自由回答	56
(1) テキストマイニングによる共起ネットワーク	56
(2) カテゴリー分類分析	57
第4章 高校生調査結果	
1. 単純集計・クロス集計結果	61
(1) 基本属性	61
(2) 普段の生活について	63
(3) 家族や家庭のことについて	67
(4) ヤングケアラーについて	83
2. 自由回答	86
(1) テキストマイニングによる共起ネットワーク	86
(2) カテゴリー分類分析	87
第3部 一般県民調査	
第1章 一般県民調査の概要	
1. 調査概要	91
(1) 調査設計	91
(2) 調査結果の見方	91
第2章 一般県民調査結果	
1. 単純集計・クロス集計結果	93
(1) 基本属性	93
(2) ヤングケアラーの認知度	94
2. 自由回答	105
(1) テキストマイニングによる共起ネットワーク	105
(2) カテゴリー分類分析	106

## 第4部 総括・考察

### 第1章 児童生徒調査

1. 家族の世話をしている児童生徒の把握	109
(1) 家族の世話をしている児童生徒の割合	109
2. 家族の世話の状況	110
(1) 世話の対象	110
(2) 世話の状況(内容、頻度や時間等)	110
3. 家族の世話による影響	113
(1) 家族の世話による学校生活等への影響(実態)	113
(2) 家族の世話による学校生活等への影響(自覚)	117
(3) 家族の世話に対する負担感	120
4. 周囲からの支援の状況と支援ニーズ	122
(1) 家族の世話に関する相談等の状況	122
(2) 周囲に求める支援	124
5. ヤングケアラーの自己認識と認知度	126
(1) ヤングケアラーの自己認識	126
(2) ヤングケアラーの認知度	127
(3) ヤングケアラー支援窓口等の認知状況や参加意向	128
6. ヤングケアラー問題に対する児童生徒の意見(自由回答)	131

### 第2章 一般県民調査

1. ヤングケアラーの認知度	135
2. ヤングケアラーへの関わり	136
(1) 周囲でのヤングケアラーと思われる子どもの認知状況	136
(2) ヤングケアラーと思われる子への対応	137
3. ヤングケアラーに対する相談体制	138
(1) ヤングケアラーに関する相談先	138
(2) 相談しやすい環境づくり	139

### 第3章 考察

1. ヤングケアラーと思われる子どもの人数(推定)	141
2. ヤングケアラーに係る現状と課題等の考察	142
(1) 家族の世話の実態と学校生活等への影響	142
(2) ヤングケアラーであることや世話の負担に対する自認状況	142
(3) ヤングケアラーの支援ニーズへの対応	143
(4) ヤングケアラーに関する認知向上と周囲の支援意識の醸成	143
(5) 児童生徒調査の成果と課題	144

## 第5部 参考資料

1. 調査票<小学生用>	145
2. 調査票<中高生用>	155
3. 調査票<一般県民用>	165
(参考). 家族のお世話などについて悩みがある時に利用できる相談先のご案内	168

# 第1部 本調査の概要

## 第1章 本調査の概要



## 本調査の概要

ヤングケアラーの実態や支援の状況を把握するため、下記のような対象に実態調査を行った。

### (1)本調査の概要

目的	本調査は、ヤングケアラーの早期発見と支援施策等の検討を行うための基礎資料とする
調査の種類	①児童生徒調査： 県内の国公立学校の小学5年生から高校3年生の全ての児童生徒 ②一般県民調査：県内在住者
調査方法	①児童生徒調査： 各学校を通じて児童生徒向け、保護者向けの調査依頼文を配布し、児童生徒本人がWEBアンケートフォームにて回答 筆記で回答を希望する児童生徒のために、別途紙媒体を準備 ②一般県民調査： WEB 調査アンケート500名
調査項目	国が令和2・3年度に実施したヤングケアラー関連調査の調査項目を基本としつつ、有識者検討会において、本県独自項目の追加等を行った

### (2)調査検討会の設置

有識者・実務経験者からなる調査検討会を設置・運営した。調査検討会は3回開催した。

【沖縄県ヤングケアラー実態調査検討会 構成員】

(敬称略・順不同)

氏名	役職	所属等
名城 健二	教授	沖縄大学 人文学部 福祉文化学科
比嘉 昌哉	教授	沖縄国際大学 総合文化学部 人間福祉学科
上野 さやか	理事	特定非営利活動法人 おきなわCAPセンター
坂本 将吏	校長	認定NPO法人侍学園スクオーラ・今人沖縄校
崎間 恒哉	課長	沖縄県教育委員会 県立学校教育課
宮城 肇	課長	沖縄県教育委員会 義務教育課
宮城 和一郎	課長	沖縄県子ども生活福祉部青少年・子ども家庭課





## 第2部 児童生徒調査

### 第1章 児童生徒調査の概要



# 1. 調査概要

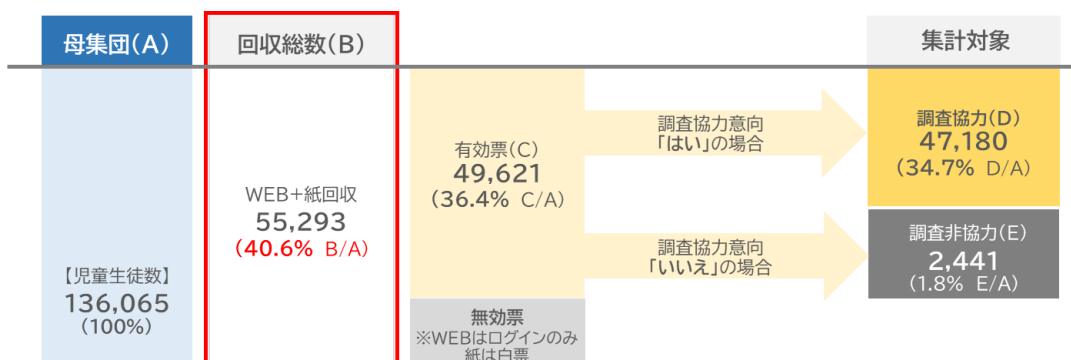
## (1) 調査設計

目的	本調査は、県内の児童生徒を対象としたアンケート調査を実施し、ヤングケアラーの早期発見と支援施策等の検討を行うための基礎資料とする
調査対象者	県内の国公立私立学校の小学5年生から高校3年生の全ての児童生徒(特別支援学校等を含む)136,065人 小学生:34,315人 中学生:50,432人 高校生:51,318人
調査方法	各学校を通じて児童生徒向け、保護者向けの調査依頼文を配布し、児童生徒本人がWEBアンケートフォームにて回答 筆記で回答を希望する児童生徒のために、別途紙媒体を準備
調査期間	令和4年9月12日(月)～10月28日(金)
調査項目 ※5頁一覧表参照	国が令和2・3年度に実施したヤングケアラー関連調査の調査項目を基本としつつ、調査検討会にておいて、本県独自項目の追加等を行い、小学生用(5・6年生)調査票(28問)、中高生用調査票(30問)を作成
調査実施にあたっての留意事項	本調査は、児童生徒に家族や家庭内の様子についてたずねるものであることから、回答者に対し調査協力意思をたずねる設問を設定した

## (2) 回収状況

### ① 全体

児童生徒調査の回収率は、40.6%【うち、有効回答数は49,621(36.4%)】



- \* 母集団【児童生徒数】(A):沖縄県データを参考(国公立は令和4年4月現在、私立は令和4年5月現在)
- \* 回収総数(B):WEB回答及び紙調査票の回収総数
- \* 有効票(C):回収総数(B)から無効票を除いたもの
- \* 調査協力(D):有効票のうち、調査協力意向で「1.はい」と回答(集計対象)
- \* 調査非協力(E):有効票のうち、調査協力意向で「2.いいえ」と回答

## ② 回収状況(内訳)

調査対象	母集団(A) 【児童生徒数】	回収総数(B)	有効票(C)			無効票
			集計対象		調査非協力 (E)	
			調査協力(D)	割合		
小学生	34,315	13,715	12,052	35.1%	373	5,586
中学生	50,432		15,847	31.4%		
高校生	51,318		19,281	37.6%		
合計	136,065	55,293	47,180	34.7%	2,441	5,586

## (3)調査結果の見方

- 回答結果の割合(%)は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点第2位で四捨五入しているため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ)であっても合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答(2つ以上の選択肢を選択できる質問)の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しているため、合計が100%を超える場合がある。
- 集計サンプル数が少ない属性項目については、1サンプルあたりの重みが大きく、比率が変動しやすいため、結果の利用には注意を要する。
- 比較する全国調査については、小学生「令和4年3月 ヤングケアラーの実態に関する調査研究」、中高生「令和3年3月 ヤングケアラーの実態に関する調査研究」とする。
- 全国調査との比較において、選択肢の一部変更や沖縄県独自の選択肢追加があるため、単純比較ができない設問がある。
- 高校生の学校種別について、本県高校の設置に「市町村立」はないが、調査回答選択肢の整理上、「国立・県立・市町村立」と表記する。
- 『世話をしている家族が「いる」』と回答した児童生徒がヤングケアラーに該当するとは限らない。

■児童生徒調査項目と調査結果の参照頁

大分類		調査項目				本書頁番		
						小学生	中学生	高校生
1. 単純集計・クロス集計結果	(1) 基本属性	① 学年			7	31	61	
		② 学校種別			7	31	61	
		小	中	高		—	—	—
		—	—	③ 学校課程		—	—	61
			③	④ 性別		7	31	61
			④	⑤ 居住地域		7	31	61
			⑤	⑥ 同居家族		8	32	62
			⑥	⑦ 健康状態		8	32	62
	(2) 普段の生活について	① (ア) 学校への通学状況－出欠の状況			9	33	63	
		① (イ) 学校への通学状況－遅刻・早退の状況			9	33	63	
		② 習い事等への参加状況(中・高生は部活動の参加状況)			10	34	64	
		●	③ 普段の学校生活等であてはまること			10	34	64
			④ 現在の悩み事			11	35	65
			⑤ 悩み事について話を聞いてくれる人の有無			11	36	66
		★	⑥ 将来の進路希望			—	36	66
	(3) 家庭・家族のことにについて	① 世話をしている家族の有無			12	37	67	
		② 世話を必要としている家族の続柄			12	37	67	
		●	③ (ア) 世話を必要としている人の状況・世話の内容－父母			13	38	68
		●	③ (イ) 世話を必要としている人の状況・世話の内容－祖父母			14	39	69
			③ (ウ) 世話を必要としている人の状況・世話の内容－きょうだい			14	39	69
			③ (エ) 世話を必要としている人の状況・世話の内容－その他			15	40	70
			④ 世話をしている内容			16	41	71
			⑤ 世話を一緒にしている人			16	42	72
			⑥ 世話を始めた年齢			17	43	72
			⑦ 世話をしている頻度			17	43	73
			⑧ (ア) 一日あたりの世話に費やす時間－平日			18	44	73
		★	⑧ (イ) 一日あたりの世話に費やす時間－休日			18	44	74
		●	⑨ 世話をしているためにやりたいけれどできないこと			19	45	74
			⑩ 世話で感じるつらさ・ストレス			19	45	75
		★	⑪ (ア) 世話の大変さ－体力面			20	46	75
		★	⑪ (イ) 世話の大変さ－精神面			20	46	76
		★	⑪ (ウ) 世話の大変さ－時間面			20	46	76
			⑫ 世話について相談した経験			21	47	77
		●	⑬ 世話について相談相手			21	48	78
		●	⑭ 世話について相談をしたことがない理由			22	49	79
		⑮ 世話について話を聞いてくれる人の有無			22	50	80	
	●注	⑯ 学校や大人にしてもらいたいこと			23	51	81	
		⑰ 希望する相談方法			23	52	82	
	(4) ヤングケアラーについて	★注	① ヤングケアラーにあてはまるか			24	53	83
			② ヤングケアラーの認知度			24	53	83
			③ ヤングケアラーについて知ったきっかけ			25	54	84
		★	④ 認知しているヤングケアラー相談窓口			25	54	84
			⑤ ヤングケアラーオンラインサロン等の参加意向			26	55	85
	2. 自由回答	(1) テキストマイニングによる共起ネットワーク				27	56	86
		(2) カテゴリー分類分析				28	57	87

★: 沖縄県独自質問項目

★注: 小学生のみ沖縄県独自質問項目

●: 全国の設問選択肢に沖縄県独自の設問選択肢を追加した

●注: 中学生・高校生のみ

